

インドで40年間に渡って、仏教の布教活動をしている森田捷泉氏(70歳)を招いて、講演と語り合いの集いが行われた。主催は、NPO法人 楽舎(浜松市春野町)。6月3日(日)。浜松市の鴨江アートセンターで行われた。

インドの女性、僧侶、神主、ヨーガの指導者、ビジネスマン、ライター、技術者、主婦など、さまざまな方が参加した。

今の「リアルなインド」を聞くことができた。身過ぎ・世過ぎのために、インドでお坊さんをしているわけではなく、森田氏のまさに体を張っての活動の体験が聞けた。

森田氏は、インドで日本山妙法寺の僧侶として40年間、インドで布教活動を行っている。日本人墓地を守り、インドの地で奉仕活動を行ってきた。寺には幼稚園も併設され、スラムの子供たちも通う。現地の人々にとって、この寺はなくてはならない存在になっている。(3枚目の写真がインドの寺:インドのムンバイ)

インドの宗教間紛争(過去にヒンドゥーとイスラム、あるいはシークなどとの争い、まさに殺し合うようなこともあった)のとき、平和大行進(団扇太鼓を叩いて南無妙法蓮華経と唱えて歩む)など先頭に立って活動もしてきた。

まさに「いのちをかけて」という面もある。同僚のお坊さんは、ネパールで一人、スリランカで一人、殺されている。すべてを天におまかせし、『法華経』の不軽菩薩の精神に立って、潔くきっぱりと活動している。その力強さが響くお話であった。

熱を込めての1時間の講話の後、インドのスイーツをいただきながら、参加者を囲んで語り合った。

師匠である藤井日達上人との出会いと出家、インドのさまざまな宗教と暮らしぶり、宗教観の対立と融和、ヒンドゥー教と仏教、お寺の運営、インドの独立運動とミャンマーの独立運動にたずさわった日本人の僧侶のこと、いろいろなことが聞けた。

浜松市北部地区特派員 池谷 啓



[森田上人](#)



[森田上人2](#)



[インドのお寺](#)